

1. 略歴

1989年3月	大阪大学文学部哲学科インド哲学専攻卒業
1991年3月	大阪大学大学院文学研究科哲学哲学史専攻博士前期課程修了
1996年3月	大阪大学大学院文学研究科哲学哲学史専攻博士後期課程単位取得退学
1996年9月	米国ハーヴァード大学大学院サンスクリット・インド学科留学
2002年6月	博士 (Ph.D.) 学位取得 (ハーヴァード大学)
2009年10月	京都大学人文科学研究所助教
2012年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

サンスクリット語学文学

b 研究課題

古代インドの家庭儀礼と社会文化史

c 概要と自己評価

目下の主要テーマ「ヴェーダの宗教 (ブラフマニズム) における聖典学習」について、三つの方向から研究を進めた。第一に、ヴェーダの宗教伝統における学習入門の儀礼と、非ブラフマニズム宗教である初期仏教における入門の儀礼を比較した。第二に、ヴェーダ聖典の学習において最重要と目される聖詩節サーヴィトリーについて、初期ヴェーダからポスト・ヴェーダ期に至るまでの宗教文化における位置づけとその変遷を跡付けた。第三に、2009年からフィールドワークを続けている南インド・ケーララ州のヴェーダ伝承について、紀元前インドのサンスクリット文献の記述を参考にしつつ、現代社会にどのように古代宗教が生きているかについて、学習儀礼を中心に、家庭儀礼を軸として中間まとめを行った。

d 主要業績

(1) 予稿・会議録・その他

国際会議、Kajihara, Mieko, "The Sacred Verse Sāvitrī in the Vedic Religion and Beyond", *16th World Sanskrit Conference Book of Abstracts*, p. 17, 2015

国内会議、梶原三恵子、「家庭儀礼一覧「十六行事」からみるナンブーディリ社会の現在」『日本南アジア学会第28回全国大会報告要旨集』、89-90頁、2015.9

共著、梶原三恵子、「月に守られた者」、岩波書店辞典編集部編『世界の名前』、岩波新書、1-3頁、2016.3.

(2) 口頭発表

国内、梶原三恵子、「Vādhūla-Śrautasūtra 10.15」、京都大学人文科学研究所共同研究、京都大学、2014.11.14

国内、梶原三恵子、「ウパニシャッドの入門儀礼と初期仏典の受戒儀礼」、仏教儀礼の成立と展開に関する総合的研究研究会、金沢大学、2015.2.21

国際、Kajihara, Mieko, "The Sacred Verse Sāvitrī in the Vedic Religion and Beyond", 16th World Sanskrit Conference, Bangkok, Thailand, 2015.6.29

国内、梶原三恵子、「家庭儀礼一覧「十六行事」からみるナンブーディリ社会の現在」、日本南アジア学会第28回全国大会、2015.9.27

国内、梶原三恵子、「ケーララ州の Ṣoḍaśa-kriyā とナンブーディリ社会」、京都大学人文科学研究所共同研究「ブラフマニズムとヒンドウイズム準備研究」、京都大学人文科学研究所、2015.11.20

国際、Kajihara, Mieko, "The ṣoḍaśa-kriyās and today's Nampūtiri society", International Symposium: The Brahmanism and Hinduism, Prolegomena, Kyoto University, 2016.3.11

(3) 会議主催 (チェア他)

国内、「日本印度学仏教学会」、実行委員、東京大学、2016.

国内、日本南アジア学会、第28回学術大会実行委員、2015.1~2015.9

(4) 共同研究 (産学連携除く)

国内、京都大学人文科学研究所、「ブラフマニズムとヒンドウイズム：準備研究」、2014~

国内、京都大学人文科学研究所、「ヴェーダウーラ・シュラウターストラ研究」、2015~

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、インド思想史学会、編集委員、2012.4～

国内、日本印度学仏教学会、評議員、2014.10～

国内、東方学会、会員、2013～

国際、American Oriental Society、会員、1996～

(2) その他

国内、京都大学人文科学研究所共同研究員